
貧酸素情報

鹿児島県水産技術開発センター
 平成25年 11月6日(水)

鹿児島湾 貧酸素情報 No.5

[1] 11月5日の調査結果

(1) 貧酸素水塊の状況

鹿児島湾奥部の水深0m~30m層では、溶存酸素量が4.0mg/lを下回る水塊は確認されませんでした(下図参照)。

(2) 赤潮生物の出現状況

湾奥部で珪藻類が多い状況でした。また渦鞭毛藻類のPfiesteria属(コブシツリ, シモイダ)を9~71cells/ml確認しました。

有害種のうち、ヤマトマリーナは確認されませんでした。

(3) 海況

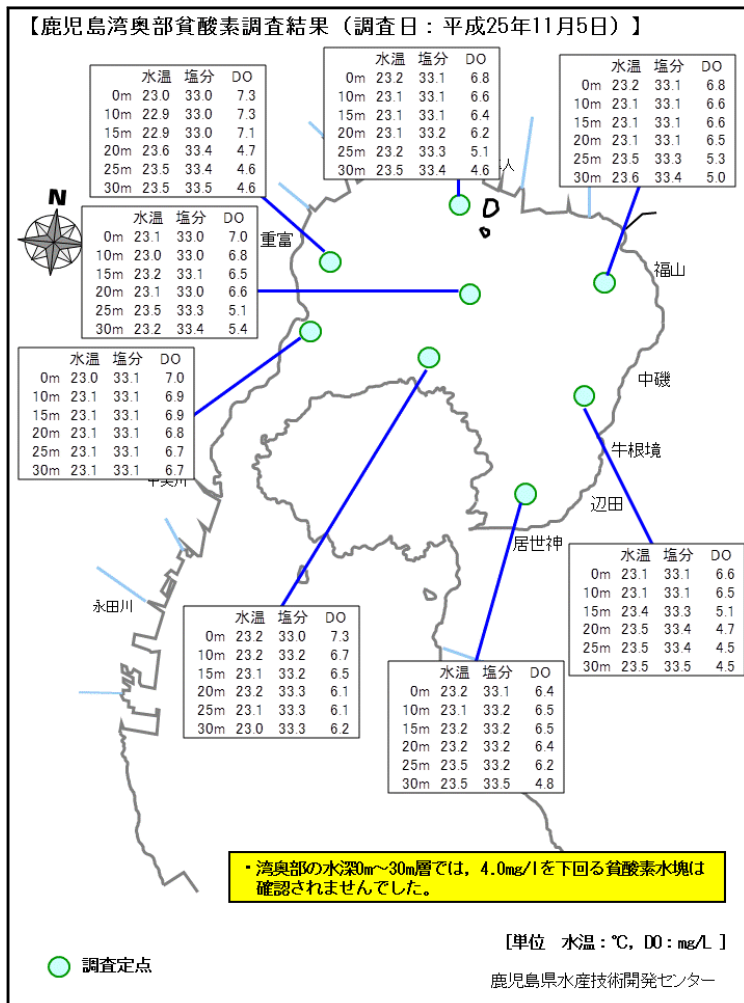
表層水温は、湾奥部で23.0~23.2℃と平年同時期よりやや高め、また、塩分については33.0~33.1と平年同時期並み、透明度は6.0~9.0mで平年同時期よりやや低めとなっています。

水温：湾奥部平均 23.1℃ (平年値 22.0℃)
 塩分：湾奥部平均 33.1 (平年値 32.9)
 透明度：湾奥部平均 7.6m (平年値 9.9m)
 (平年値は平成16~24年の11月の平均値)

[2] 今後の貧酸素水塊の予想

今回の調査では、0m~30m層で溶存酸素量が4.0mg/lを下回る水塊は確認されませんでした。

今後、表層水温が更に低下し、鉛直循環が活発となると思われますが、25m以深で溶存酸素量が低めのところがみられますので、しばらくは注意が必要です。



(注意事項)

- 給餌の際、魚群が遊泳すると、貧酸素層の海水が表層まで浮き上がるおそれがあります。
- 過去、溶存酸素が4.0mg/lを下回った状況での給餌で、へい死事故が発生した事例がありますので、注意が必要です。
- 給餌の前には、必ず溶存酸素量を確認し、餌食いの状況を見て、無理な給餌を避けた方がよいでしょう。

赤潮情報(携帯電話): <http://kagoshima.suigi.jp/akashio/i/index.shtml>
 赤潮情報(パソコン): <http://kagoshima.suigi.jp/akashio/newHP/index.html>